

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第371回

久石 譲

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和5年10月5日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

自分が感動できるものを
提出していかないと、
周りの人、ひいては観客に
響いていかない。

久石 譲は、日本の作曲家、編曲家、指揮者、ピアニスト。本名：藤澤 守。歌手の麻衣は長女。

Column

私もスポーツの指導に携わっている中で、今回の言葉に近い感覚があります。やはりどのくらい伝えられているか（響いているか）は当然ながら非常に大切に、その“答え合わせ”としては直接関わっていただける期間の競技力・人間力の向上はもちろんのこと、卒業後の活躍や連絡をもらうことなどによって感じています。彼らは自分たちが大好きで頑張りたいと思っている競技において“成長したい”“勝ちたい”と強く願っているわけですから、彼らにとって私は“目標達成への情報源”ということになります。そういう意味で、彼らは私の指導を響かせてくれている部分も大きいと感謝もしながら指導しています。学校の授業でも久石氏が表現する音楽が好きな人も同じような感覚なのだと思います。“人それぞれの好みでいいじゃん”とは思いますが、久石氏も先生方も私も音楽・勉強・スポーツに興味がない人の気持ちさえも振り向かせ、その魅力を伝えていきたいと強く願っています。なぜなら、今回の言葉にある“周りの人”とは自分の仲間や家族に置き換えることができますし、“観客”や“響く”は仲間や家族の仲間、その仲間の家族…といった“人のつながり”を意味すると思います。誰かに何かを伝えるということは、そのものの素晴らしさと魅力を感じさせるだけの“熱量”が必要なのだと改めて感じます。今回の言葉の受け止め方として“アーティストと呼ばれる人が作品を仕上げることや表現する上での心得”としてだけではもったいないと感じます。私だったらどんな風に伝えよう？この人が本当に伝えたいことは何か？私は（人は）どんなことに感動するのか？そんなことを考えていると単純に“夢中になれるものがほしい！”という気持ちになりませんか？また、そういうものがある人は“夢中になれるものがあってよかった！”と改めて感じませんか？そして“この素晴らしさを伝えたい！”と思いませんか？久石氏もみなさんと同じ高校生だったわけです。みなさんの情熱もきっと伝わります。みなさんにはそれだけのパワーがあるのです！そして響かせた情熱は必ず自分に戻ってきます。そんな心の行き来を大切にしていきたいですね！